

(公財) えひめ地域政策研究センターでは、遍路道沿いの景勝地について調査を行い、学識経験者の協力を得て名勝指定の候補地としてリストアップしております。

その際、各地で出会えた季節の美しい風景や、参拝者が巡る四国八十八ヶ所の遍路道沿いの様子を、春・夏・秋編に続き、掲載いたします。



冬の夕暮れはもの悲しい気持ちになり、宿へと急ぎます。



番外札所の篠山は、伊予と土佐がその帰属をめぐって争いを続けた場所です。今も国境争いの名残を示す石柱が残されています。



43番明石寺の荘厳な本堂の屋根は、珍しい赤色系の釉薬瓦が使われています。



宇和盆地の冬の風物詩「わらぐろ」も最近は随分少なくなりました。



内子町の千人宿大師堂で一休み。久万高原町まではまだまだ遠い道のりです。



晩秋の内子町では、昔ながらの米の稲木干しが見られました。



久万から松山平野へ下る三坂峠の入口には、たくさんのスキの穂が揺れていました。



冷え込んだ日には、松山平野からは、真っ白に輝く石鎚山を望むことができます。



46番札所浄瑠璃寺の境内には、イチョウの落ち葉の黄色い絨毯が敷き詰められていました。



松山市久谷町の網掛石は、弘法大師が網に入れて天秤棒で運んだ際に網目が付いたというという伝説の巨石です。



石手寺から道後へ向かう山越えの道には、優しい顔のお地藏様が静かに座っています。



愛媛の冬の風物詩、伊予柑の実る果樹園の中を歩きます。



松山市下難波の腰折山の麓の鎌大師へ向かう途中では「お迎え大師像」がお出迎えをしてくれます。



58番札所の仙遊寺に向けて山道を登ると、山門で立派な仁王像が出迎えてくれます。